

令和 7 年度（2025 年度）事業報告書

運営主体：社会福祉法人大阪府社会福祉事業団

施設名：豊中市立養護老人ホーム永寿園とよなか

1. 事業の執行概要

「地域と共に“わたしらしく生きる”」を運営方針に掲げ、2025 年問題に伴う介護人材不足や入所者の重度化といった課題に対し、「介護 DX 化」と「生産性向上」の推進に取り組んだ 1 年となりました。

また、法人全体の「健康経営優良法人」認定を受け、外部機関（株式会社こころ機構）によるメンタルヘルス研修やカウンセリングの実施、法人産業医相談窓口の活用等を通じ、職員が安心して長く働ける職場環境づくりを推進しました。

地域公益事業においては、多世代の地域住民が気軽に集える過ごし場「りんくてらす MOE」として毎週水曜日に地域交流室を開放し、不登校児や乳幼児親子等の居場所として活用しました。さらに、地域公開講座や認知症サポーター養成講座の定期開催、東泉丘小学校での出前講座等を通じ、地域共生社会の実現に向けた社会資源としての役割を果たしました。

クラブ活動では従来の民謡端唄・華道・書道に加え、新たにボッチャやヨガのクラブを開設しました。外出機会の拡充として月 2 回の買い物送迎のほか、大阪市や神戸市へのバスツアーを年 2 回実施しました。屋上ビアガーデン、お花見ドライブ、実演食事会（お好み焼き・お寿司）、秋祭り、敬老祝賀会、居酒屋イベントなどの多彩な行事を実施し、SNS（Instagram・TikTok・YouTube）を通じてタイムリーな情報発信を行いました。

2. 令和 7 年度重点項目

生産性向上と ACP の充実を両輪とした重度化対応の実践

- (1) 介護が必要な特定施設入居者生活介護契約者を 3 階フロアへ、一般入所者居住区域を 4 階へと介護量による住み分けをすすめ、昨年度 4 階に導入した共用部 AI 人感カメラ（11 台）や Wi-Fi 環境を活用したインカムシステムを活用し、4 階共用部分遠隔で見守りながら 3 階に職員を集中可能とする効率的な夜間人員配置と連携体制を定着させました。今年度はさらに 3 階の特定契約者を対象としてベッド上見守り機器（睡眠・活動状況把

握)の導入検討を進め、巡回の効率化と急変時の早期把握、データ分析に基づくケア計画の策定に向けた取り組みを実施しました。

- (2) 家族関係や持病、個人の希望に沿った ACP (人生会議) の充実を図り、施設内や屋上庭園での軽作業、喫茶・パン販売の運営などを地域住民と共同で行える環境づくりを通じ、入所者が地域の中で役割を持って活躍できるよう支援しました。身寄りのない方の「終の棲家」として行政と協力し看取りまで対応できる体制整備およびマニュアル化を進めました。また、診療所医師や医療機関との連携のもと、重度化や認知症対応が可能な環境を構築しました。
- (3) 業務の棚卸しを実施して細分化を行い、介護技術を要しない単純作業について ICT 機器の活用や外国人材・障がい者スタッフ等の活用につなげるとともに、業務手順のマニュアル化・定期的なアップデートにより施設全体の生産性向上を図りました。
- (4) 要援護高齢者短期入所事業については、行政や地域包括支援センター等からの相談・依頼に対する受け入れ率 100%を維持しました。また、地域の病院・診療所の MSW、ケアマネジャー等へ制度内容や利用対象者の範囲について丁寧な周知・広報活動を行い、迅速な支援の提供に努めました。

3. 地域公益事業

地域のすごし場「りんくてらす MOE」の充実と地域連携

施設理念「その人らしくここで・・・」のもと、地域住民が“わたらしく生きる”ための社会資源として施設を活用できるよう以下の取り組みを推進しました。

- (1) 過ごし場の提供と多世代支援：毎週水曜日に「りんくてらす MOE」として施設の一部を開放し、不登校児とその保護者、乳幼児子育て中の親子等の居場所づくりを実施しました。保育の園庭開放など多世代が気軽に集い相談支援につなげる取り組みを行いました。また、登校拒否児童支援や子どもの居場所を提供する地域組織との連携を深めました。

(2) 地域住民との交流・農耕体験：屋上庭園や「MOE ふぁ〜む」での農耕体験、施設行事へのボランティア受け入れ等を通じ、施設を「地域で使い合う」仕組みづくりを推進しました。

(3) 地域公開講座・出前授業：施設開催型の公開講座に加え、小・中・高校等への出前講座（認知症サポーター養成講座）を実施し、認知症への理解促進と地域資源としての認識定着に努めました。

4. 施設管理

開所 12 年目を迎え、経年劣化に伴う設備不具合に対し日常点検表に基づく適正な維持管理を継続しました。水質検査、昇降機点検、消防設備点検等の専門業者委託を適切に履行し、突発的な大規模修繕を防止するための早期発見・こまめな修繕を行いました。

【令和 7 年度の主な修繕・設備更新実績】

- ・ 消火ポンプ制御盤の不良基板交換
- ・ 小荷物専用昇降機（ダムウェーター）の主制御基板取替工事
- ・ 各居室エアコンの状況確認および内部クリーニング
- ・ 厨房食器消毒保管庫の基板交換
- ・ 厨房再加熱カートの扉・キャスター修繕
- ・ 非常放送用マイクロフォン・誘導音・点滅灯の入れ替え
- ・ 給湯器 7 号機の更新

（必要に応じて豊中市長寿社会政策課へ報告・協議の上で対応を実施）

5. 労務管理

衛生委員会や生産性向上推進委員会を中心に 5S（整理・整頓・清掃・清潔・習慣）の視点から職場環境の整備を進めました。

介護の重度化に対応するため、併設特養での実践研修や各種福祉機器のデモ・研修を推進し、職員の介護技術向上を図りました。また、無資格の新入職員に対して初任者研修・実務者研修の受講案内を行い、介護福祉士取得等のスキルアップを支援しました。

さらに、ICT 機器（インカム、AI 見守りカメラ、介護記録システム等）の連動による業務の「ムリ・ムダ・ムラ」の解消と業務負担軽減を進めまし

た。メンタルヘルス面では、外部機関（こころ機構）の研修開催、LINE カウンセリングの継続、産業医相談窓口の設置等によりメンタル不調による休職・離職の防止を図りました。管理者面談や正規職員のアドバイザー担当制を通じ、タイムリーに相談・改善ができる風通しのよい職場環境を構築するとともに、特定技能外国人や日本語学生の受け入れを継続し、人手不足への対応と適材適所の職員配置を行いました。